

自ら学び主体的に判断し行動できる生徒の育成
～確かな学力・豊かな人間性を育む教育活動～

小田原市立千代中学校

1 事業の目的

本校は学校教育目標を「自ら学び、主体的に判断し、行動できる生徒の育成」とし、これからの時代をたくましく生き抜き、未来を拓く力を育てることをめざし、教育活動に取り組んでいる。今年度からは、令和3年度に全面実施となる新学習指導要領に向けて、全教職員が授業づくりと評価のあり方を研究することとなった。また、昨年度学校評価から課題として挙げられた、次の4点を中心に学校経営計画（グランドデザイン）の具現化をめざし研究を深めた。

2 事業の内容

(1) 校内研究の充実を図る（授業づくりとその評価）

- ・新学習指導要領実施に向けて、改訂の趣旨を理解する。
- ・目指す能力や資質・能力を育むために「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善を進める。
- ・先進校の教員を講師として招き、改訂の基本方針とそれを受けての具体的な取り組みや授業改善について講話による理解の深化を図る。
- ・指導と評価の一体化のために、教員が授業を振り返り次に生かせる授業アンケートを再検討し実施する。



(2) 教育相談を充実させ、不登校を減らす取り組みを考える

- ・支援教育・生徒指導を一つのグループとし、生徒の行動に対して支援、指導の側面から生徒を理解して対応を考えていく。
- ・S C、関係機関、小学校との連携を図り、生徒にとってより良い支援のあり方を考える。
- ・情報教育、道徳教育を推進し、他者と共によりよく生きていくためのスキルを身に付ける指導を工夫する。



(3) 学びやすい教育環境づくり

- ・ICTを活用した授業の実施に向けて環境の整備を行う。
- ・誰もが使えるようにパソコン室の使用マニュアルをつくり、研修会等を行う。

(4) 学校・地域・家庭がWin Winの関係になる連携のあり方を考える

- ・社会に開かれた教育課程の実現のために、より良い社会を創るための教育活動を地域社会と共有する。
- ・総合的な学習の時間の「地域理解学習」「自己理解学習」において、地域の教育力、家庭の教育力を生かした教育活動を考え、地域の担い手としての自分の生き方を考える、発信する学習を実践する。
- ・学校評議員会、主任児童委員連絡会、千代中学区青少年育成連絡会等の持ち方を考え、時代に沿った連携のあり方を工夫していく。

3 事業の成果

上記（1）～（4）の目標を立てて取り組んで行く予定であった。しかし、4月以降も新型コロナ

ナウイルス感染拡大防止のための休業が続き、学校はその対応に追われてしまった。未知のウイルスに対し、万全な対策を立てての学校再開までに多くの時間が費やされた。6月から学校が再開され、学校の新しい生活様式に教員も生徒も慣れていく中で、少しずつ未来へつながる学校づくりの取り組みに着手することができるようになった。

コロナ禍の中で多くの学校行事や授業づくりが例年通りにならなかったが、これを機に、もう一度学校の教育活動を見直す良い機会になったことも事実である。行事や授業の目的を考え、精選し効果的にやることも教職員一人一人が考えるようになった。学習指導要領の中では、「予測不能な社会の到来」に向けて、子ども達に生きる力をつける、確かな学力や豊かな人間性を育むことが、ずっと言われてきたが、まさに予測もしなかった社会になってみて、どのような力を子ども達に身に付けさせるのかということ改めて考えることにもなった。

このようにこれまで経験したことがない、学校の長期休業から、新年度をスタートさせるという難題や感染防止に努めながら学校生活を維持していく課題を抱えながら、千代中学校としてできることを真摯に進めてきた。

(1) について

まず、令和3年度からの新学習指導要領が全面実施になるが、スムーズなスタートがきれるように校内研究を推進した。横浜国立大学附属横浜中学校研究主任池田純教諭を招いての講義、小田原市教育委員会の指導主事を招いての授業研究を重ね、少しずつではあるが、求められる教師の授業力が理解できた。また、それに連動し、評価検討委員会を立ち上げ、指導と評価の一体化を更に目指すとともに来年度の千代中学校学びプランの見直しに着手することができた。深い学びには、どのような題材を扱えばよいか、単元計画の立て方、どのように評価するかという具体は次年度の取り組みになる。

(2) について

休業期間を終えての新年度が始まることになった。不登校が増えるのではないかと心配されたが、新しい学年集団が、生徒の特性を見ながら、休業中もホームページ、電話、手紙などできめ細かく対応した成果もあり、分散登校からスムーズなスタートがきれた。学校再開後も教育相談、いじめアンケートなどで生徒の困り感を聞き出し、適切な指導・支援をおこなってきた結果、長期の継続的な不登校生徒は減らすことができている。また、小学校との連携を密にし、入学前の教育相談、入学後の支援シートを用いた教育相談を行うことで、新入生も良いスタートがきれている。

(3) について

I C Tの活用については、今年度視聴覚教材の整理や環境づくりを目標としていたが、コロナ禍で一気に進むことになった。端末を用いた授業の工夫などは、次年度の課題になる。

(4) について

地域連携については、今年度取り組むことができなかった。様々な地域活動が中止されてボランティアの機会がなくなってしまうが、その中で、できることを考え地域のために活動する生徒もいた。高齢者施設へ体操のビデオを贈ったり、生徒会で、車いすを寄贈したりすることができた。

学校評議員連絡会での昨年度の反省から学校評価を見直すことで、千代中学校が目指す生徒像や教育活動を明確にすることができた。コロナ禍が終息するまでに、総合的な学習の時間を見直し、行事の精選などカリキュラムマネジメントに取り組んでいきたい。

